

第16回港湾労働セミナー神戸開催 大いに学び、交流し、全国港湾運動を継続発展



全国港湾第一六回港湾労働セミナーは、六月三日(月)午後から六月五日(水)午前にかけて、神戸市「神戸ホテル フルーツ・フラワー」において、各単組、地区港湾から四十八名の参加と、講師や役員、開催地役員、実行委員を含め総勢六十五名で開催した。

セミナーは四回の講座を聴講し途中、分科会、工場見学会を挟み、最後に感想文を提出し、労働組合運動を学習する意義ある三日間となった。

定期大会の運動方針により、昨年は東日本地区の参加者で開催されたが、今年度は西日本地区(六単組の西日本地域および日本海港湾、名港労働、大港労働、神戸港湾、四国港湾、関門港湾、博多港湾、鹿児島港湾、沖縄港湾)の参加を中心に開催した。

一日目、六月三日午後一時半からの開催セミナーは、外池実行委員の司会で進められた。

はじめに、開会にあたり主催者を代表し糸谷委員長は「全国港湾の運動をどうするか」という意味で、若手活動家の皆様を中心に運動の継続を目的としてこれまで開催してきた。昨年は東日本地域に絞る福島で開催し、今年度は西日本地域を中心に神戸での開催となった。時代変化の激しい中で、このセミナーの成果を是非とも職場で生かして頂く事をお願いする」と開会挨拶を行った。続いて、今回のセミナー開催地である神戸港湾を代表して吉岡議長より「日中は大きい学び、夜は懇親を深めて頂き、開催地神戸としても少しでもお役に立てるよう、本日まで準備を進めてきた。神戸から二名が参加をし、皆様のお世話、お役にできるよう努めたい。皆様の将来のご活躍を期待する」との歓迎挨拶を行った。

その後、日程説明、諸注意があり第一講座の「ITF(国際運輸労働連)の活動について」と題し、ITF東京事務所所長の講演を頂

いた。ITFの紹介から始まり、第四次産業革命とグローバル化の動きが大きな影響を及ぼしている事など、交通運輸産業での新技術の解説や次回の世界大会の開催年である二〇二三年までのITFの計画、昨秋にシンガポールで開催された第四十四回世界大会の課題と戦略などの解説を公聴した。技術革新の中に革新的なキャンペーンと世界レベル、地域レベルの政策立案に関与することが重要であると講演を頂いた。

続いて第二講座では、岡山大学大学院津守教授から「港湾政策の方向と課題および産別港湾労働組合の対応」などを中心に講演を頂いた。

近年の港湾政策の変容では、スーパー中核港湾プロジェクトから国際コンテナ戦略港湾政策への意向の持つ意味、近年の港湾政策の問題点、諸課題への対応などを解説して頂いた。その中で、日港協の当事者能力の欠如により港運労使の協議体制の弱体化、自動化タミナル導入に関する労使協定の無視、誰のための自動化か?などが特に印象に残った。

二日目、六月四日午前九時から第三講座として玉田書記長より「一九春闘(中間的な概括)と港湾産別運動」―産別協定/産別労働組合/地区(港)・職場の取り組みを考える―と題し、講演を頂いた。

その後、三つの講座から受けた内容などを題材として、参加者を六班に分けて会場を移し分科会を行いました。

参加者の自己紹介から始まり、第一、第二、第三講座の感想、職場の要求、取り組みについて、各単組の賃上げについて、本音の意見をたかかわせ、職場での問題意識を高めることに主眼を置き、活発な議論がなされた。午後からは、分科会の統括としてそれぞれ発表内容討議、検討を全員で考えた。

その後、レクリエーションの一環として、「明太子」、「ビール」工場の見学と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。

景を共通認識とする。②一学に出向き、それぞれ出来る明太子、ビールを堪能して確認しておきたいことを考える。③港湾産別運動(産別労働組合)の意義、その到達点としての産別協定の重要性の確認。④今後その取り組み、港湾労働運動の前進を考える時の視点は何かを考える。以上の四点を問題意識として解説して頂いた。

本年六月より全労済の愛称が「こくみん共済coop」となったことや自然災害の保障など説明を受けた。

その後の、分科会結果発表では、発表については各班概ね、自動化の動きが印象に残った(雇用・職域で不安を感じた)、業界(日港協)の力が弱まっていると感じた、など活発な議論が行っていたことが伺え、発表内容はよくまとまっており、堂々と発表されていた。



参加者の感想文については、①単組、地区を越えての交流がよかった。②交流と勉強と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。

その後の、分科会結果発表では、発表については各班概ね、自動化の動きが印象に残った(雇用・職域で不安を感じた)、業界(日港協)の力が弱まっていると感じた、など活発な議論が行っていたことが伺え、発表内容はよくまとまっており、堂々と発表されていた。

その後の、分科会結果発表では、発表については各班概ね、自動化の動きが印象に残った(雇用・職域で不安を感じた)、業界(日港協)の力が弱まっていると感じた、など活発な議論が行っていたことが伺え、発表内容はよくまとまっており、堂々と発表されていた。

その後の、分科会結果発表では、発表については各班概ね、自動化の動きが印象に残った(雇用・職域で不安を感じた)、業界(日港協)の力が弱まっていると感じた、など活発な議論が行っていたことが伺え、発表内容はよくまとまっており、堂々と発表されていた。

参加者の感想文については、①単組、地区を越えての交流がよかった。②交流と勉強と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。

参加者の感想文については、①単組、地区を越えての交流がよかった。②交流と勉強と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

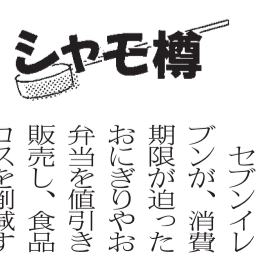
続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。

参加者の感想文については、①単組、地区を越えての交流がよかった。②交流と勉強と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。

参加者の感想文については、①単組、地区を越えての交流がよかった。②交流と勉強と有意義な三日間だった。③機会があれば次回も参加したい。など参加者一同が労働組合への思いを強めた感想であった。

続いて、閉会セミナーを開催し、玉田書記長の総評を受け、糸谷委員長の「一九春闘勝利を目指して、団結カンパロー!」の三唱で第一六回港湾労働セミナーを盛会裡に締めくくった。



セブイレブンが、消費期限が迫ったおにぎりのお弁当を値引き販売し、食品ロス削減に取り組む取り組みを今年の秋から始める。具体的には消費期限間近のお弁当などを自社の電子マネー「NANACO(ナナコ)」で買った各に、定価の五割程をポイント還元する方向だとしている。これは質的な値引きで、ロソンも「PONTA(ポンタ)」や「Dポイント」会員と同様のポイント還元をする」と発表している。▼これまでもコンビニの廃棄ロス問題では、本部と加盟店の間で綱引きが続いてきた。廃棄ロスによる損失を減らしたい加盟店が見切り販売をすることを巡っては、二〇〇九年に公正取引委員会がセブイレブンに対し、本部が加盟店の値引き販売を制限することは独占禁止法違反に当たるとして、排除措置命令を出している。だが、ある加盟店オーナーは「値引き販売はイメージが悪くなる」といったことを本部から言われた」という話もある。▼食品ロスが世界的に問題視されているなかで、従来のコンビニの手法が変化を迫られているのではないかと感じる。同時にカード会員を増やしたいという意図も見え、食品ロスを減らすための大きな一歩と捉え、取り組みに注視するとともに自らもロスを減らす努力をしていきたい。